

ディーカラットの

ブライダル



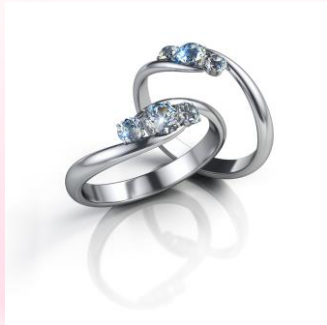
Agenda

ディーカラット

Dcarat

Jewelry & Watch

- 婚約指輪
- 結婚指輪
- ダイヤモンド
- ダイヤモンド以外の石
- 貴金属について
- 鑑定書と鑑別書



ディーカラット
Dcarat
Jewelry & Watch

婚約指輪



- 婚約成立の証(あかし)として、男性から女性へ贈る指輪です。
- ダイヤモンドなどの純潔で高価な特別感のある石を使用したものを選ぶのが一般的です。
- どちらかといえば普段つけるものというよりは、パーティーや式典などの際に映えるゴージャスで華やかなデザインになります。

- 古代ローマ時代、約束の履行を誓約する印として使われていた鉄の輪を、結婚の指輪として用い、それが婚約の際にも使われるようになったのが始まりです。
- 日本で婚約指輪が広く用いられるようになったのは、ライフスタイルの欧米化が進んだ頃からです。

婚約指輪にダイヤモンドが多い理由

- 婚約指輪にはダイヤモンドが多く用いられます。
理由は
 - ① 最も硬い石であること = 固い絆で結ばれる
 - ② 無色透明 = 純真無垢で花嫁にふさわしい
- ダイヤモンドに限らず、誕生石やお気に入りの石を用いる人もいます。

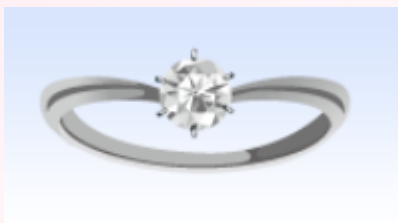
婚約指輪の値段は給料3か月分？

- 日本では「給料の3か月分」などの高価な婚約指輪を贈る風習がありますが、実はこの「相場」に根拠があるわけではありません。
- これは昔のアメリカの宝石会社が行なった広告が日本でも宣伝され、広まったためです。
- これほどの高価な指輪を贈る風習は日本とアメリカくらいで、他の国々ではみられないようです。
- 現在のERの平均単価は約32万円です。

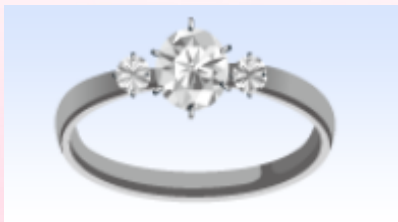
婚約指輪の基本デザイン

- 婚約指輪のデザインは大きく分けて5種類あります。

- ソリティア・・・婚約指輪の定番デザインで、石を1粒だけセットしたリングです。特に、1粒ダイヤを立て爪で留めたタイプが根強い人気です。アームのデザインが豊富で、爪の有無でも、印象が大きく変わります。石の存在感が際立つため、ダイヤの4Cやデザインにこだわる人が多いです。

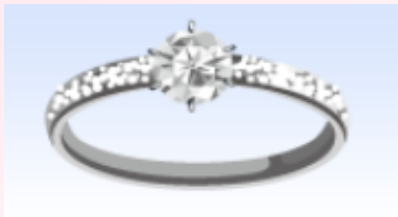


- メレ・・・メインの石の脇にメレダイヤ（0.03カラット以下の小粒ダイヤ）を添えたデザインです。メインの石が引き立てられて、華やかな印象を与えます。メレダイヤの数や形でリングのイメージが変わるので、セミオーダーで自分のオリジナルの指輪を作る人が多いです。



婚約指輪の基本デザイン

- **パヴェ** フランス語で「敷石」という意味の通りに、アームにメレダイヤを敷き詰めたゴージャスなデザインです。中央にメインの大きなダイヤをセットしたタイプのほか、メレダイヤだけを隙間なく並べたリングも人気です。



- **エタニティ** 同じサイズとカットのダイヤを並べた終わりのない「永遠」の愛を意味するデザインです。指を一周するフルエタニティと半周分まで石を並べたハーフエタニティがあります。



- **色石リング** ピンクやブルーなどファンシーカラーのダイヤをはじめ、天然の美しい色が魅力的なのが色石リングです。ダイヤ以外にパールや誕生石（カラーストーン）が人気です。メインの石の脇にカラーのメレダイヤを添えたデザインもあります。



ディーカラット
Dcarat
Jewelry & Watch

結婚指輪



結婚指輪とは

- **結婚指輪とは、結婚式において、夫婦として共に歩んでいく二人の誓いの証として、交わされるものです。**
- **丸い結婚指輪は「永遠に途切れることのない愛情」を象徴するものとされています。更に指輪を常に身に付けることで相手の存在を強く感じることができる意味合いがあります。**
- **結婚後も、お互い日常的に薬指にはめて生活することを前提とすることが多いので、飾りは控えめでシンプルなものが一般的となっています。**

- **結婚指輪も婚約指輪同様、古代ローマ時代から始まった習慣であるという説が有力です。**
- **当時のローマ教皇が、約束事を誓約する印である鉄の輪を結婚の誓いとして使いはじめたのが最初で、「契約」の意味で用いられました。**
- **日本で結婚式の際に指輪を交換するのが定着したのは、約60年前からです。ヨーロッパから伝来してきた歴史のある習慣です。**

結婚指輪の基本デザイン

- 結婚指輪のデザインは大きく分けて6種類あります。

- サイドデザイン・・・アームのサイドのデザインにアクセントがある指輪です。誕生石を1粒だけセットしたり、ゴールドのワンポイントを入れたり、ふたりにとって意味のあるモチーフやイニシャルを刻印するなど、横から見られたときに、さりげなく個性が光ります。



- カジュアルなデザイン・・・リング一周にぐるりと彫りもので模様を入れたり、立体感のあるモチーフを彫刻するなど、ファッションリングタイプのカジュアルなデザインです。普段着や他のアクセサリーともです合わせやすい。



結婚指輪の基本デザイン

- **ダイヤ入りデザイン** いつも着けている結婚指輪にダイヤを入れるのが人気です。1粒ダイヤを日常使いしやすく埋め込んだり、小粒のメレダイヤをデザインして入れたり、同サイズのダイヤを一周させたりするデザインです。



- **メッセージ入り** イニシャルや結婚記念日、ふたりの大切な思い出の日付や言葉を刻印したり、自分たちだけに分かるシンボリックな模様を入れたりしたデザインです。リングを重ねると形が浮かび上がるデザインも。

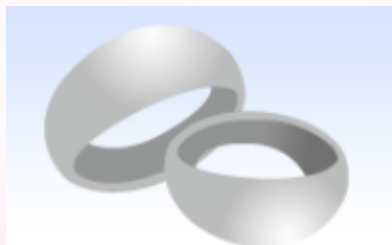


結婚指輪の基本デザイン

- **華奢なデザイン** . . . ほっそりしたシンプルなデザインのリングです。日常生活にマッチして、シーンを選ばず着けられるので、さりげないおしゃれさが男性にも人気です。ウェーブで変化をつけたり、ワンポイントのアクセントもあります。



- **幅広デザイン** . . . 男性の太めの指にもフィットするマニッシュなリングです。ボリュームがあり、個性的なデザインにアレンジできるので、パッと目を引くおしゃれなインパクトは大きいです。結婚指輪っぽくないオリジナリティーがカッコいいです。



婚約指輪と結婚指輪のつけ方の順番

- ① 婚約指輪は結婚式までは左手（右手でも可）の薬指にはめておきます。
- ② 結婚式当日は婚約指輪を右手の薬指に移します。
- ③ 挙式にて結婚指輪を交換してお互いの薬指にはめます。
- ④ 結婚式が終わったらマリッジリングをはめた薬指の上にエンゲージリングをはめます。
- ⑤ 婚約指輪はプロポーズされてから、結婚式までと広く知られていますが、婚約指輪をつけるもつけないも新郎新婦次第です。近年、重ね着けが流行っています。

ダイヤモンドについて

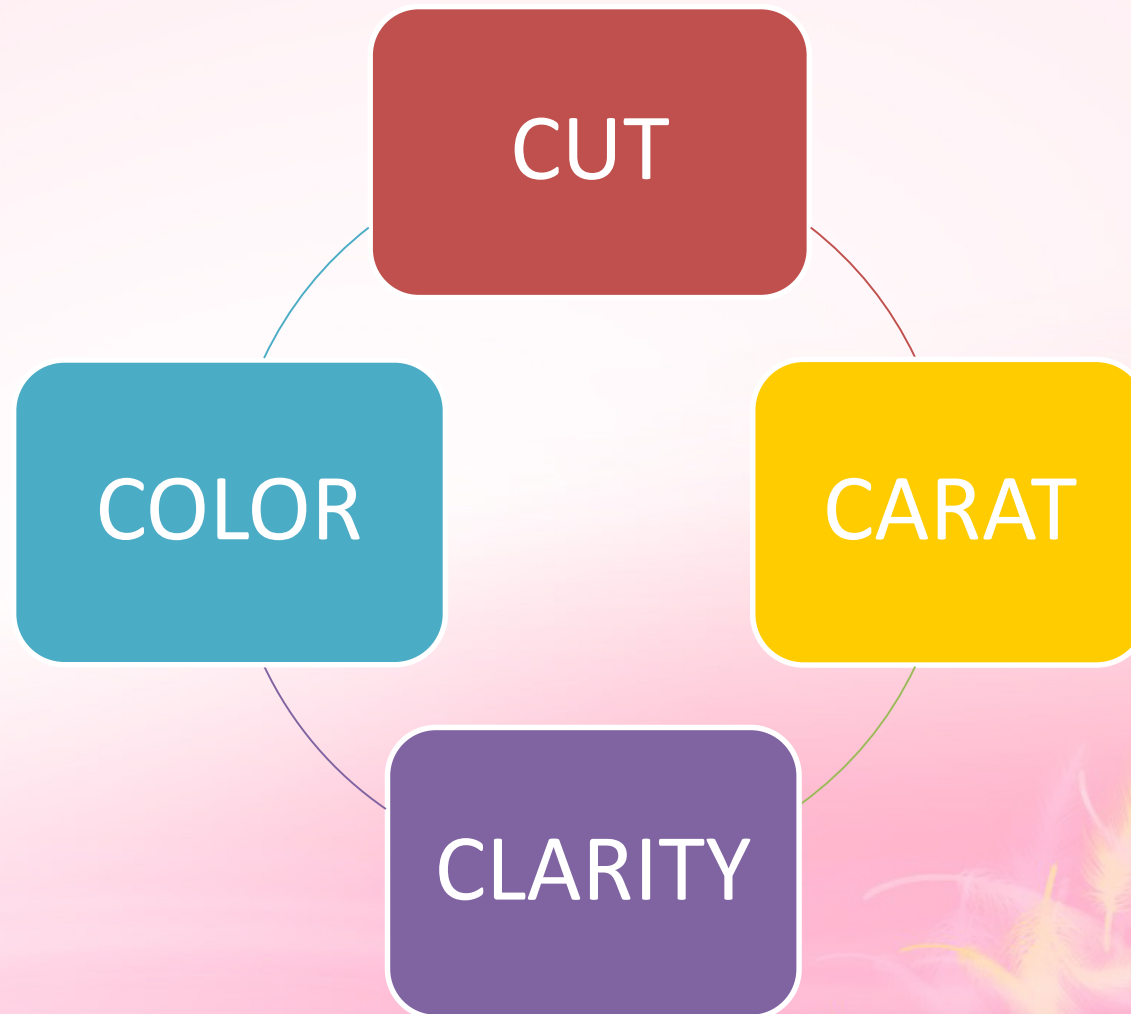


ダイヤモンドについて

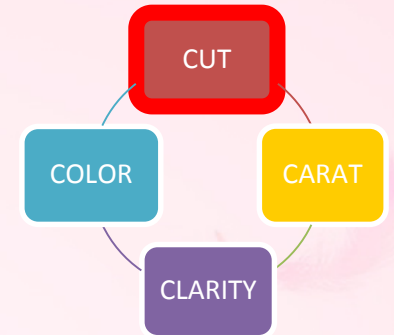
- **ダイヤモンドは紀元前4世紀ごろに、インドで最初に見つけられたと言われており、旧約聖書にもその名が記されています。**
- **ギリシャ語の「アダマス」(Adamas)【征服しがたい】に由来するダイヤモンドの名は、万物最高のその硬さを物語っています。**
- **ダイヤモンドは宝石を使う歴史の中で、このような地位を占めるようになったのは、ほんの数百年足らずのことです。**
- **ダイヤモンドは原石のままではあまり光らないため、昔は色の美しいエメラルド、ルビー、サファイアなどのカラーストーンの方が宝石の中でも珍重されていました。**
- **地球上で一番硬い物質であるダイヤモンドを研磨する方法（ダイヤモンドはダイヤモンドの粉で磨きます）が見つかり、ダイヤモンドのもつ輝きを最高度に発揮するブリリアントカットが発明されて以来、ダイヤモンドは宝石の王座に輝くようになりました。**

ダイヤモンドの品質（4C）

- ダイヤモンドの品質を判断する上で下記4点が基準としてあります。



CUTについて



Excellent 最高級

Very Good 理想的

Good 良好

Fair やや劣る

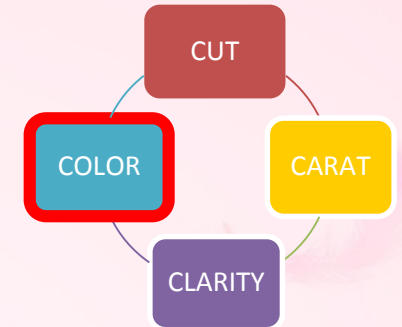
Poor 劣る

ダイヤ表面の研磨と、形のバランスを評価する基準です。

カット職人が研磨した仕上げの状態、上下・左右が対象かどうかなどによって、ダイヤの輝きが違ってきます。

唯一人が関与する基準です。

最も一般的な58面カットの場合、Excellent（最高）からPoor（劣る）まで5段階のグレードがある。

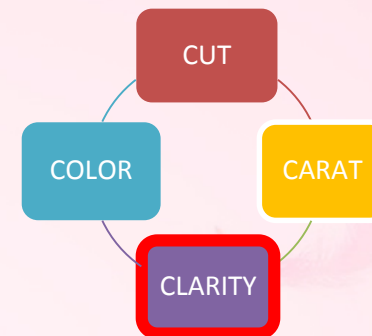


DEF	GHIJ	KLM	N~R	S~Z
無色	ほぼ無色	わずかに黄色味	非常に薄い黄色	薄い黄色

ダイヤの色合いのことです。
無色透明のDから薄い黄色のZまで、
23段階のランクで評価します。

色付きダイヤだからといって全て質が悪
いわけではなく、ピンクダイヤやブ
ルーダイヤはファンシーカラーとして
珍重され、あえて色付きダイヤを選ぶ
人もいます。

CLARITYについて

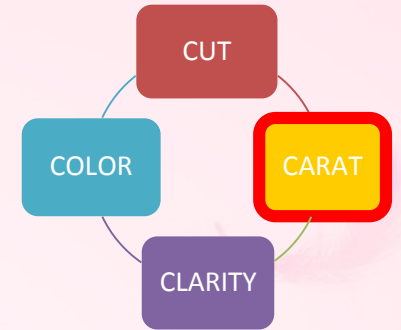



FL		10倍の拡大検査で無傷
F		10倍の拡大検査で表面に微小な欠点
VVS	1	10倍の拡大検査で目立たない程度の内包物 ※1と2は傷の大きさの違い
	2	
VS	1	10倍の拡大検査で発見が多少困難な欠点 ※1と2は傷の大きさの違い
	2	
SI	1	10倍の拡大検査で容易に見つけられる欠点
	2	
I	1	肉眼で容易に発見できる欠点
	2	
	3	

ダイヤの透明度を表すものです。

原石に含まれる不純物や傷、欠けなどが少ないほど、透明度が高くて、グレードもアップします。

完全な無傷でなくても、10倍の顕微鏡で拡大しなくては分からない程度であれば、それほど気にしなくてもOKです。肉眼では判別しにくいSI以上が、人気です。



			
2.00ct (8.2m/m)	1.00ct (6.5m/m)	0.5ct (5.15m/m)	0.33ct (4.1m/m)

1カラット=1ctと表記され、0.2グラムに相当し、ダイヤの重さを表しています。

大きさの単位ではないものの、左の写真のようにカラットによってダイヤの直径が変わるので、カラット数が高いほど大粒になります。

人気なのは0.3カラット前後です。

品質を決めるもうひとつの評価基準「輝き」

- 4C（輝きの要素）とは別に「輝き」という評価を、科学的に証明することができる鑑定方法が登場しました。イスラエルにあるサリネ社が開発したサリネ・ライトは、ダイヤモンドの輝きを評価することができる測定器です。
- サリネ・ライトは、ダイヤモンドから放たれる反射光の状態や、石の内部及び外部で分散される光を計ることができます。
- 下記 4 種類あります。
 - ブライトネス（Brightness）：ダイヤモンド独特の白い輝きを評価
 - ファイヤー（Fire）：ダイヤモンドから放たれる、虹色の輝きを評価
 - シンチレーション（Scintillation）：光源や視点が動いた時に生じるキラキラとしたきらめきを評価
 - シンメトリー（Symmetry）：光がバランス良く放たれているか評価

品質を決めるもうひとつの評価基準「輝き」

輝きの基準は、以下の4項目で行います。

4項目ごとに5段階評価をし、それをもとに12のランクに分類されます。従来では測りきれなかった品質が、目に見える形になりました。



BRILLIANCE

ブリリアンス

強く白く輝くダイヤモンド独特の美しい輝きです。



SPARKLE

スパークル

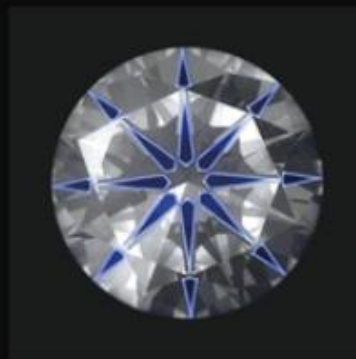
光源やダイヤモンドが動いた際に生じる煌めく光です。



FIRE

ファイヤ

ダイヤモンド内部で光が分解され、虹色に輝く色彩豊かな光です。



LIGHT SYMMETRY

ライトシンメトリー

ダイヤモンド全体からバランスよく光が放たれているか判断します。

ダイヤモンドの形（カット）

1. ラウンドリリアンカット
2. オーバルシェイプ
3. ペアシェイプ
4. マーキースシェイプ
5. ハートシェイプ
6. その他のカット法

ダイヤモンドの形（カット）

1. ラウンドブリリアントカット

ブリリアントカットと呼ばれるカッティング技法で、丸形に仕上げたダイヤです。定番だがダイヤの魅力を最大限に引き出す形とされ、中心から放射状に輝くのが特徴です。



2. オーバルシェイプ

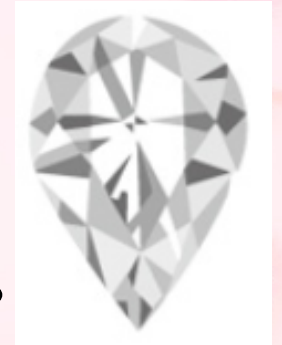
真上から見ると小判のような楕円(だえん)形で、ダイヤが際立つため、大きさをアピールできます。カラーストーンにもよく使われるカッティングで、丸形より存在感があります。



ダイヤモンドの形（カット）

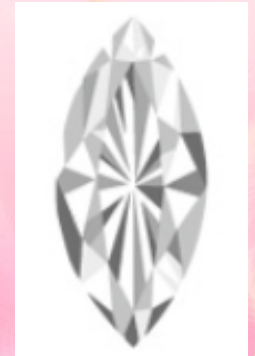
3. ペアーシェイプ

片方の先端がとがっていて、洋梨（ペアー）のような形です。涙のしずくにも見えるため、別名「ティアドロップ」とも呼ばれます。ダイヤのネックレスにも人気が高いカッティング。



4. マーキースシェイプ

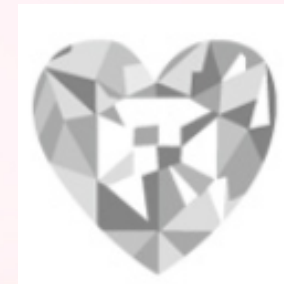
フランス語で「侯爵」の称号を意味し、ルイ15世の時代に流行したクラシカルなカッティングです。船を上から見たような上品で洗練された形で、実際のカラット数よりもダイヤを大きく見せられます。



ダイヤモンドの形（カット）

5.ハートシェイプ

ブリリアントカットの変形で、愛をストレートに表現したハートの形です。キュートでロマンチックなフォルムは、婚約指輪にピッタリです。ピンクなどの色付きダイヤにもよく似合います。



6.その他のカット法

プリンセスカットやエメラルドカットなどあります。

Q.ダイヤモンドは何でできていますか？

A.石炭と同様に「炭素」で出来ている。

炭素原子の規則正しい配列がダイヤモンドの強さと美しさを実現しています。

Q.天然ダイヤモンドの故郷はどこですか？

A.地中深くに16億年～5000万年前にできたマントルの高温高压下で、炭素はダイヤモンドに変化し、地殻変動によって地表に噴き出す。

ダイヤモンド以外の石



- 今日、宝石と言えは無色透明のダイヤモンドを思い浮かべる方が多いと思います。しかし、古代の人々の心をとらえたのは、美しい色をもつカラーストーンでした。
- 例えば、紀元前4000年頃にはすでに、最古の宝石市場であるバビロンにおいて、エメラルドが取引されていたと言われていています。しかし当時は、エメラルドは「緑色の石」を指す総称であり、実際にはエメラルド以外の緑色石が混ざっていたに違いありません。
- また、古代エジプト文明や古代メキシコ文明において、空青色のトルコ石が盛んに用いられていたことも広く知られています。
- 上記のように高度な研磨加工技術を時代には、地球から生まれた自然のままの美しい色こそが宝石の生命であり、他には見られない魅力であったと考えられます。

- 光の現象が原因となり現れる特殊な効果を「光学効果」と呼び、カラーストーンのもう一つの味わいとして尊重されています。
- スタールビー・スターサファイア（スター効果、アステリズム、星彩効果）
「アステリズム」と称されるスター効果は、針状の包有物（インクルージョン）が細かく入った宝石を山高の「カボションカット」にしたときに、光の反射で星のような6条のラインが現れます。ルビー以外にも同じコランダムに属するサファイアやクォーツ（水晶）にも見られます
- キャッツアイ（キャッツアイ効果、シャトヤンシー、変彩効果）
キャッツアイとは「シャトヤンシー」という光の効果を示す宝石の総称です。この効果は宝石内部に密集して存在する平行状のインクルージョンなどによって引き起こされ、内部反射で一条の光が現れます。
一般的にキャッツアイは、美しく希少性の高い「クリソベリルキャッツアイ」を指しますが、この他にもトルマリン、アクアマリン、エメラルド、オパールなどにも見られます。

- オパール（プレイ・オブ・カラー、遊色効果）

オパールに見られる七色の効果のことで、石をわずかに傾けると光のきらめきが見られます。これは他の宝石には見られない独特の光の効果であり、オパールの最大の魅力です。美意識の違いとして大変興味深いのは、昔から西洋では華やかな透明石のカラーストーンが尊重され、一方東洋ではヒスイやオパールに代表される、落ち着いた深い色合いの半透明石や不透明石が愛されていました。日本人はオパールを最も好む民族と言われています。トルマリンと並んで10月の誕生石としても知られています。

- アレキサンドライト（カラー・チェンジ、変色性）

「クリソベリル」に属するアレキサンドライトは、発見当時に君臨していたロシア皇帝「アレキサンドル2世」に因んで命名されたと言われ、光源の種類で自然光下ではグリーン系、白熱光下で赤系に変色性を示します。この美しさと明瞭な色変化は希少性が高く、最も高価な宝石のうちのひとつです。変色性を示しかつシャトヤンシーが現れるアレキサンドライト・キャッツアイはさらに希少性の高い宝石です。他にもサファイアやガーネットにもカラーチェンジタイプが存在します。

有機質宝石

- 宝石の大部分は鉱物（無機質）でできていますが、真珠、珊瑚（さんご）、琥珀（こはく）、象牙（ぞうげ）鱉甲（べっこう）など昔から宝石として扱われてきた有機質素材もあります。これらは、動植物の器官や組織であつたり、あるいは生物の生理作用に関連する物質です。この有機質素材を使って作った宝石を有機質宝石といいます。
- 有機質宝石は、一般に硬度が低く傷つきやすいこと、また酸やアルカリに弱いことから、取扱いには十分な注意が必要です。

有機質宝石（真珠）

- 真珠には天然真珠と養殖真珠がありますが、市場に出回っているもののほとんどが養殖真珠です。日本では、アコヤガイという貝から採取しています。
- 真珠の価値を決定する要素は母貝の種類、サイズ、マキ（真珠層の厚さ）、キズ、テリ（光沢）、色です。美しい真珠とは、マキが厚く、キズが少なく、テリのあるものといわれています。
- 真珠は他の宝石と違って真珠貝という生物からつくられた鉱物であるため、軟らかく、また経年変化することもあります。

真珠の種類



アコヤ

シロチョウ

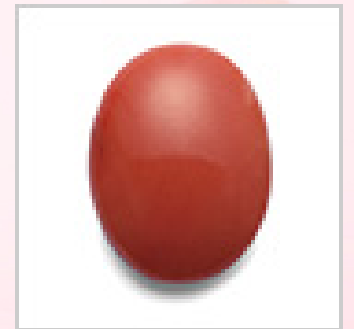
クロチョウ

マベ

淡水

有機質宝石（サンゴと琥珀）

- **サンゴ** . . . 宝石として珍重されるサンゴは、貴重さんごとして分類され、南の海に浮かぶ白いさんご礁とは全く別種のもので。さんごは色によって評価が異なりますが、最も珍重されるのは、「血赤」と称される均一な赤色のさんごです。さんごは日本でも古来から使われており、それぞれの色に独特な呼び名がつけられていますが、特に中間的な色合いは木瓜（ぼけ）の花に似ている所から、「ぼけさんご」と呼ばれています。
- **琥珀** . . . 古代の松柏科の植物樹脂が、地質学的な時間を経て硬化したものが天然の琥珀として評価されます。



ディーカラット
Dcarat
Jewelry & Watch

貴金属について



貴金属について

- 一般に、金 (Au)、銀 (Ag)、プラチナ (Pt)、パラジウム (Pd)、ロジウム (Rh)、ルテニウム (Ru)、オスミウム (Os)、イリジウム (Ir) の合計 8 種類を貴金属と称しています。
- 希少であり、加工性がよく、化学的に安定していることなどが貴金属といわれる所以です。
- 貴金属のうち、金、銀、プラチナは、主材料としてジュエリーに用います。パラジウム、イリジウム、ルテニウムは割り金 (わりがね) としてジュエリーの素材に用います。ロジウムは、めっきの材料として重要です。オスミウムは、現在ではジュエリーにもめっきにも用いません。

●金（ゴールド、Au）

ジュエリーではK18として使われることが多く、イエローゴールドは定番の貴金属です。割り金によりイエロー、ピンク、ホワイト、グリーンなどの色調ができ、ホワイトゴールドはプラチナより軽くて安価でもあるためよく使われるようになりました。

●銀（シルバー、Ag）

カジュアルにも好まれる貴金属で、硫化により黒く変色しますが磨き直しもできます。また、いぶしの古美色も楽しめます。加工製品は品位925が多く、銅のみを混ぜた合金をスターリングシルバーと呼び、特に時効硬化に優れ925の中でも区別されます。

● プラチナ（白金、Pt）

日本名は白金（はっきん）といいますが（ホワイトゴールドは白色金です）。ブライダルジュエリーの素材として高い人気があります。純プラチナは軟らかく、僅かに硬化剤を加えたハードプラチナも開発されています。

● パラジウム（Pd）

近年注目され始めたプラチナ族に属する白色金属で、プラチナより安価でより軽いという特徴があります。その特性から、ボリュームのあるデザインの製品もあります。

ジュエリーに貴金属を用いる理由

- **ジュエリーに貴金属を用いる理由は下記があります。**
 - ① **希少性があり、資産価値を高めるため**
 - ② **デザイン性を高める加工性が大変よいため**
 - ③ **化学的な腐蝕などに対する耐久性があり、長く使用できるため**
 - ④ **審美性（身につけた時に華やかさがあり人を惹きつける力）があるため**

- **貴金属の品位**

貴金属合金の中の主たる金属の純度を品位（含有率ともいう）といいます。貴金属の場合、品位はISO(国際標準規格) やJIS(日本工業規格) により千分率で表すことになっています。

- **金はカラット表示という24分率で表す習慣が残っています。**

これは他の貴金属では用いず、金特有の表示方法です。

- **千分率の表示はたとえば、金は750、プラチナはPt900などと表します。**

千分率の記号は、‰です。これを、パーミルと読みます。

貴金属の品位（品位を下げる理由）

- わざわざ900や750の合金にして品位を下げる理由は以下です。
 - ① 素材の物理的特性や加工性の改善をするため。
純金、純銀、純プラチナは軟らかいため、特に石留め用の爪には不十分なため、他の金属を添加して硬い合金を作ります。
 - ② 金の品位を、Au750(K18)や、Au585(K14)に設定すると、純金よりも素材価格を安くすることができ、求めやすい製品が供給できる為です。

割り金（わりがね）とは

- 貴金属を目的の品位にし、硬さや加工性を調整し、色調を作るために添加する金属を割り金といいます。

割が値の種類

- 金合金の代表的な割り金は、銀、銅、パラジウム、ニッケル、亜鉛などです。銀では、銅やパラジウムなどがあります。
- プラチナでは、パラジウム、ルテニウム、イリジウムなどの白金族のほか、銅、コバルトなどがあります。
- これらのほかに、特殊な特徴や用途の貴金属合金を作るために、タングステン、チタン、アルミニウムなどの金属も微量に用いられることがあります。ホワイトゴールド（白色金）の白色を作るための主な割り金は、パラジウムとニッケルです。

- 金の純度とは、金の含有率のこと、つまり、その製品が「どのくらいの割合で金（純金）を含んでいるのか」を表しています。
- 日本では、金の純度を24分率で表示します。つまり、純度100%の金（純金） = K24（24金）ということになります。
K1ごとに、4.17%ずつ純金の含有率が増えて行き、K18の場合、純金の含有率は75%になります。
- 「カラット（karat）」は、宝石に用いる「カラット（carat）」とはスペルが異なり、全く別の単位です。金の「カラット（karat）」は「純度」を表しますが、宝石の「カラット（carat）」は「重さ」を表します。
- 日本語で金の純度を表すとき、「18金」などと表記するのは、宝石に使われる「カラット（carat）」との混同を避けるため、という説もあります。

金に他の金属を混ぜる

- 純金は硬度が柔らかいため熱に弱く、型崩れしたり傷がついたりしやすいという弱点があるのです。しかしその反面、他の金属と混ざりやすいという特性があるので、混ぜ合わせて合金にすることで、その欠点を補うことができます。
- 混ぜ合わせる金属の種類や割合を変えることで、ピンクゴールドやホワイトゴールドといった、色味の違うゴールドを作り出すことができるというメリットもあります。

YG	K18の場合	(75.00 : 15.00 : 10.00%)
PG	K18の場合	(75.00 : 10.00 : 15.00%)
WG	K14の場合	(58.33 : 41.67 : 0.00%)

※ () 内の数字は 純金 : 純銀 : 純銅の比率

※あくまで一般的な数値であり、正確な割合は製品により異なります

金の純度による用途の違い

● 現在市場に出回っている金製品は、主にK24・K22・K18・K14・K10の5種類のうちのどれかであることが多いです。それぞれの、純金の含有比率や特徴、用途を下記に記します。

● K24・24金（純金99.99%～100%）

ほぼ100%の純金含有率を誇るため、腐敗・変色することなくその輝きは永久的に持続します。柔らかいためジュエリーには向かず、インゴットやコインなど、主に資産価値を目的とした製品に加工されます。純金のイメージのある金箔は、一般的にはK23であり、4.90%の純銀と0.66%の純銅が含まれています。

● K22・22金（純金91.7%：混合物8.3%）

あまり耳慣れませんが、近年注目されはじめ、主にジュエリーに使用されることが多い純度です。K24よりも丈夫ですが、金の含有率が高いため比較的柔らかく、傷が付きやすいため取り扱いには注意が必要です。

日本以外のアジアの国々では、濃いゴールドカラーが好まれる傾向があり、純金に近い色調と輝きを持つK22のジュエリーは人気が高いようです。

金の純度による用途の違い

● K 1 8 ・ 1 8 金（純金 7 5 % : 混合物 2 5 %）

高い純度を保ちつつ、加工しやすい柔軟さと適度な硬さを持つ K 1 8 は、ジュエリーにはうってつけです。ピンクゴールドやホワイトゴールドといったカラーバリエーションがあるのも魅力です。ジュエリー以外にも時計、ライター、カメラ、スマートホンケースなど、その用途は広くあります。

● K 1 4 ・ 1 4 金（純金 5 8 . 5 % : 混合物 4 1 . 5 %）

混合物の割合が増えることによって耐久性が増すメリットがある反面、純金の含有率が減ることによって、その輝きは少し劣り、変色するリスクも増えます。

しかし、金の含有率が減るため、価格が比較的安価であるのが魅力で、ジュエリーをはじめ、ペンなど、多くのものに加工され広く流通しています。

● K 1 0 ・ 1 0 金（純金 4 2 % : 混合物 5 8 %）

金の価格高騰を受けて、近年に登場してきた K 1 0 。金の含有率よりも混合物が上回るため、上記のような純度の製品に比べ、輝きが弱く錆びやすい傾向はありますが、加工がしやすく安価なため、市場にも多く出回っています。ジュエリーに加工されることがほとんどのようです。

鑑別書と鑑定書



- 宝石の比重、屈折率、光学的性質などを各種宝石鑑別機材を用いて検査した科学的データから、天然、合成、人造、模造といった起源や、カット・研磨以外の人的手段（modification）の履歴を明らかにした上で、結果を記した報告書です。
- 裸石（はだかいし loose stone）に限らず、ジュエリーとしてセットされたものに対しても発行されます。
- 書面には必ず発行者の名称と所在地が明記され、日本国内で発行される鑑別書には、通常写真が添付されます。
- 日本のルールでは、一般の鑑別書には価格、品質評価、産地名の記載は行われないことが規定されています。

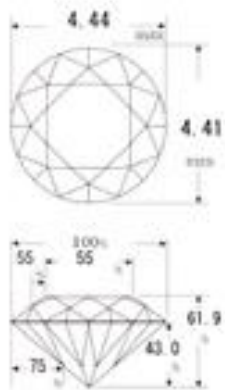
宝石鑑別書 Certificate of Gem Identification		レポート番号 999T000087																
																		
鑑別結果 CONCLUSION																		
鉱物名/素材 SPECIES	天然コランダム																	
宝石名 VARIETY	ルビー																	
コメント COMMENT	色の改善を目的とした加熱が行われています																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">鑑別石 DESCRIPTION OF STONE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色・透明・外観特徴 APPEARANCE</td> <td>赤色・透明・ヴィトリアス光沢</td> </tr> <tr> <td>形状又はカット SHAPE or CUT</td> <td>Oval Mixed Cut</td> </tr> <tr> <td>サイズ又は個数 SIZE or PIECE</td> <td>6.98 X 4.83 X 2.83 mm</td> </tr> <tr> <td>重量 WEIGHT</td> <td>0.82 0.20 刻印にて</td> </tr> </tbody> </table>			鑑別石 DESCRIPTION OF STONE		色・透明・外観特徴 APPEARANCE	赤色・透明・ヴィトリアス光沢	形状又はカット SHAPE or CUT	Oval Mixed Cut	サイズ又は個数 SIZE or PIECE	6.98 X 4.83 X 2.83 mm	重量 WEIGHT	0.82 0.20 刻印にて						
鑑別石 DESCRIPTION OF STONE																		
色・透明・外観特徴 APPEARANCE	赤色・透明・ヴィトリアス光沢																	
形状又はカット SHAPE or CUT	Oval Mixed Cut																	
サイズ又は個数 SIZE or PIECE	6.98 X 4.83 X 2.83 mm																	
重量 WEIGHT	0.82 0.20 刻印にて																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">鑑別方法 METHOD OF IDENTIFICATION</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屈折率 REFRACTIVE INDEX</td> <td>1.770(スポット法にて)</td> </tr> <tr> <td>偏光性 OPTIC CHARACTER</td> <td>複屈折</td> </tr> <tr> <td>多色性 PLEIOCHROMISM</td> <td>二色性有り</td> </tr> <tr> <td>拡大検査 MAGNIFICATION</td> <td>液膜インクルージョンを認む</td> </tr> <tr> <td>蛍光性 FLUORESCENCE</td> <td>蛍光反応あり(中) 蛍光反応あり(弱)</td> </tr> <tr> <td>分光性 ABSORPTION SPECTRUM</td> <td>クロームラインを認める</td> </tr> <tr> <td>備考 REMARKS</td> <td>脇石ダイヤモンドと認む</td> </tr> </tbody> </table>			鑑別方法 METHOD OF IDENTIFICATION		屈折率 REFRACTIVE INDEX	1.770(スポット法にて)	偏光性 OPTIC CHARACTER	複屈折	多色性 PLEIOCHROMISM	二色性有り	拡大検査 MAGNIFICATION	液膜インクルージョンを認む	蛍光性 FLUORESCENCE	蛍光反応あり(中) 蛍光反応あり(弱)	分光性 ABSORPTION SPECTRUM	クロームラインを認める	備考 REMARKS	脇石ダイヤモンドと認む
鑑別方法 METHOD OF IDENTIFICATION																		
屈折率 REFRACTIVE INDEX	1.770(スポット法にて)																	
偏光性 OPTIC CHARACTER	複屈折																	
多色性 PLEIOCHROMISM	二色性有り																	
拡大検査 MAGNIFICATION	液膜インクルージョンを認む																	
蛍光性 FLUORESCENCE	蛍光反応あり(中) 蛍光反応あり(弱)																	
分光性 ABSORPTION SPECTRUM	クロームラインを認める																	
備考 REMARKS	脇石ダイヤモンドと認む																	
		鑑別者 TESTER G.I.A.G.G.																
		011411																
宝石鑑別団体協議会会員 会社名 住所 連絡先																		
<small> 登録付されている宝石の検査、鑑定は、個人での検査結果のものに制限されたものです。 本日の鑑別書は検査内容および検査結果を記載しておりますが、保証書等を保証するものではありません。 本日の鑑別結果は100%での責任および表示に関する規定はこの鑑別書の裏面に記しております。 </small>																		

鑑定書（グレーディングレポート）

- 重量と品質のグレード（等級）を、根拠となる測定・検査結果とともに示したのがグレーディングレポートです。
- ダイヤモンドについてしか発行されていません。
- グレードは、4つのC（4C）の尺度で評価されます。
- グレーディングレポートは、鑑定会社それぞれ独自の書式で発行されていますが、どのレポートにも4つのCの他、写真が添付されるとともに、ダイヤモンドのサイズ（直径の最大値と最小値、テーブルからキューレットまでの深さ）やプロポーション（テーブル面の割合、クラウン角度、パビリオン角度、ガードルの厚さなど）、紫外線を照射したときの蛍光性の強さ、クラリティ特徴の記号による図示、等の測定・検査結果が記載されています。

Diamond Grading Report

ダイヤモンド グレーディング レポート



レポート番号 999T000030

CARAT

カラット

PRESENT WEIGHT

重量

0.326 CARAT

CUTTING STYLE

カット

ROUND BRILLIANT

SIZE

サイズ

4.41 - 4.44 X 2.74 mm

CUT (PROPORTION)

カットプロポーション (GIA規格) 評価

CULET SIZE

カレットの大きさ

NONE

CROWN ANGLE

クラウン角

35.0°

クラウン高さ

16.0%

PAVILION ANGLE

パヴィジョン角

40.8°

FINISH

仕上げ

POLISH

研磨

EXCELLENT

SYMMETRY

対称性

EXCELLENT

COLOR GRADE

色

D

COLOR ORIGIN (天然)

天然 (NATURAL)

JAR/鑑定番号 (J-1) (J-2) (J-3) (J-4) (J-5) (J-6) (J-7) (J-8) (J-9) (J-10) (J-11) (J-12) (J-13) (J-14) (J-15) (J-16) (J-17) (J-18) (J-19) (J-20) (J-21) (J-22) (J-23) (J-24) (J-25) (J-26) (J-27) (J-28) (J-29) (J-30) (J-31) (J-32) (J-33) (J-34) (J-35) (J-36) (J-37) (J-38) (J-39) (J-40) (J-41) (J-42) (J-43) (J-44) (J-45) (J-46) (J-47) (J-48) (J-49) (J-50) (J-51) (J-52) (J-53) (J-54) (J-55) (J-56) (J-57) (J-58) (J-59) (J-60) (J-61) (J-62) (J-63) (J-64) (J-65) (J-66) (J-67) (J-68) (J-69) (J-70) (J-71) (J-72) (J-73) (J-74) (J-75) (J-76) (J-77) (J-78) (J-79) (J-80) (J-81) (J-82) (J-83) (J-84) (J-85) (J-86) (J-87) (J-88) (J-89) (J-90) (J-91) (J-92) (J-93) (J-94) (J-95) (J-96) (J-97) (J-98) (J-99) (J-100)

D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

CLARITY GRADE

透明度の等級

VVS1

FLAWLESS

IF | VVS1 | VVS2 | VS1 | VS2 | SI1 | SI2 | I1 | I2 | I3

OBSERVATION UNDER 10X BINOCULAR MICROSCOPE (10倍双眼顕微鏡観察による)

CUT GRADE

カット

EXCELLENT

EXCELLENT | VERY GOOD | GOOD | FAIR | POOR

GIA Grading System for Gemstones (GIA Gemstones Grading System) 評価

REMARKS

備考

NONE

011609

GIRDLE

ワッセル

THIN-MEDIUM (FACETED)

FLUORESCENCE

発光性 (紫外線照射時)

MEDIUM WHITISH BLUE

※このレポートはGIAのグレードングシステムに基づいており、その以上の鑑定結果はGIAのシステムに組み込まれていません。
 ※このレポートはGIAのグレードングシステムの鑑定結果に基づいてのものであり、その以上の鑑定結果はGIAのシステムに組み込まれていません。
 ※このレポートはGIAのグレードングシステムの鑑定結果に基づいてのものであり、その以上の鑑定結果はGIAのシステムに組み込まれていません。

GRADER

鑑定士

G.I.A. G.S.

宝石鑑別団体協議会会員

会社名

住所 連絡先